

# TX 8両化具体化、通学定期代の割引拡大を

5月17日日本共産党流山市議団は、つくばエクスプレス（TX）を運営する首都圏新都市鉄道株式会社の大株主であり、役員や職員を志向させている千葉県に対し、要請書を提出しました。

## 8両化「導入約束」まで10年

小田桐たかし市議らは、①8両化 大、④安全第一で駅舎や橋脚等を含む導入の具体的な取り組みと計画の公表、  
②精神障害者割引の導入（4月から 始め、総点検を行い、確実な大規模修繕を行うことを要請しました。  
③通学定期代の割引率拡大 義務化された障害者差別解消法の取 特に、利用者の強い願いとなつて  
④安全第一で駅舎や橋脚等を含む「車両8両化」導入は、鉄道会社



千葉県へ要請する党市議団（一番右から、いぬいえり議員、小田桐たかし議員）と加藤英雄県議（柏市選出）

社自らが「2030年前半に導入」と表明しており、都内の全駅舎は、8両化対応にホームを延長しています。今後は千葉や茨城県内の各駅舎で着手が予定されています。小田桐市議はワンマン運転による安全確保や万が一の際の安全な誘導なども含め、具体的取り組みはもとより、6月開催予定の株主総会で計画の公表を求めました。  
また、JRや東武鉄道で導入を表明している精神障害者割引の適用や通学定期代の割引率拡大をTXでも実現できるように強く要請しました。

### TX—コロナ禍から回復

22年度のTXの決算では、新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいた利用者数に回復が見られたことから、経常損益19億5900万円の3年ぶりの黒字となりました。新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた利用者数も、22年度は一日当たり34万9000人（21年度比14%増）と、過去最多となった2019年度の39万5000人の9割程度にまで回復してきています。



つくばエクスプレスのさらなる充実を求める要請書

千葉県知事 熊谷俊人 様

2024年5月17日  
日本共産党流山市議団

日頃より、県民の安全・安心にご尽力頂いていることに感謝申し上げます。

千葉県及び流山市など沿線自治体が株主となっている首都圏新都市鉄道株式会社が運営しているつくばエクスプレスは、開業から今年、19年目を迎えます。

22年度の決算は、新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいた利用者数に回復が見られたことから、経常損益19億5900万円の3年ぶりの黒字となった。新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた利用者数も、22年度は一日当たり34万9000人(21年度比14%増)と、過去最多となった2019年度の39万5000人の9割程度にまで回復してきたことから、以下、要請します。

記

- 1, 車両8両化の実現については、会社方針の「2030年代前半」まで残り10年となり、確実な実施が待たれています。8両化実施に必要なホームの延長年次計画にくわえ、車両や機器類の増強、職員研修等が想定される各種課題や年次計画を自治体や利用者と共に共有すること。
- 2, 2021年に障害者差別解消法が改正され、事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が今年4月1日から義務化されました。精神障害者割引の導入をJRや大手私鉄等で導入されており、自治体からの多くの出資等で運営されているつくばエクスプレスも早期に導入すること。
- 3, 沿線自治体のまちづくりにおいて年少人口の増加が顕著となる一方で、貧富の格差拡大等が子どもたちの学びや生活に大きく影響している社会情勢となっています。将来的な利用者を継続して確保するためにも、通学定期代の割引率を拡大すること。
- 4, TX建設時、写真週刊誌でも「常磐新線『超ズサン高架橋工事』を告発・コンクリートの内側はボロボロに崩れていた」と報道され、やり直し工事が実施された経緯があります。鉄道開通から間もなく20年を迎えることから、安全第一で駅舎や橋脚等を含め、総点検を行い、確実な大規模修繕を行うこと。

以上。